



水産海洋シンポジウム

漁海況予報の歩みと技術革新—水産資源の持続的利用を目指して

日時：2024年3月17日（日）9:30～16:20

場所：東京海洋大学白鷹館 1F 講義室（オンラインとのハイブリッド開催を予定）

共催：日本海洋学会

コンピーナー・座長：筧 茂穂・竹茂愛吾（水産機構資源研）・

渡慶次 力（福井県大海洋生資）・米崎史郎・黒田 寛（水産機構資源研）

参加登録：<https://forms.office.com/r/ytRydf4id5>（締切 3月12日 23:59 JST）

問合せ先：<https://forms.office.com/r/0RSzn883nG>

* 昼休みに水産海洋学会の各賞授賞式、終了後の 16:40 から定時総会が開催されます。

司会：筧 茂穂（水産機構資源研）

水産海洋学会会長挨拶 9:30～9:35

木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）

開催趣旨説明 9:35～9:45

黒田 寛（水産機構資源研）

セッション 1. 「漁海況予報の歩みと現状」

座長：竹茂愛吾（水産機構資源研）

1. 太平洋さば類長期漁況予報について

由上龍嗣（水産機構資源研） 9:45～10:10

2. サンマ長期漁海況予報について

筧 茂穂（水産機構資源研） 10:10～10:35

3. アカイカの漁海況と好漁場予測

酒井光夫・大瀧敬由（JAFIC）・鈴木大智・加藤慶樹（水産機構開発セ）
10:35～11:00

各賞授賞式 11:00～11:30

休憩 11:00～12:30

セッション 2. 「最先端技術を活用した漁海況予報」

座長：渡慶次 力（福井県大海洋生資）

4. 漁業者参加型の観測システムと現場還元

伊藤毅史（佐賀玄海水振セ） 12:30～12:55

5. 研究機関と連携した海況予測システムの開発と社会実装
田中裕介（株式会社オーシャンアイズ） 12:55～13:20
6. 水産海洋分野における人工知能の活用と今後の展開
飯山将晃（滋賀大データサイエンス学部） 13:20～13:45
7. 機械学習によるさば類の来遊予測
山田和也（宮崎水試）・渡慶次 力（福井県大海洋生資） 13:45～14:10

セッション3. 「漁海況・来遊予測と資源評価」

座長: 米崎史郎（水産機構資源研）

8. 東京湾における魚種別資源評価と漁場環境情報の発信
田中美帆・渡邊晟也（千葉水総研セ） 14:10～14:35
9. 環境要因を考慮した資源評価～キンメダイ漁業と黒潮大蛇行の関係～
亘 真吾・川内陽平・青木一弘・竹村紫苑・竹茂愛吾・半沢祐大・小柳津 瞳（水産機構資源研） 14:35～15:00
10. カツオ来遊予測の変遷とこれからの展望～中西部太平洋におけるカツオ資源評価とのギャップ解消を目指して
青木良徳（水産機構資源研） 15:00～15:25

休憩 15:25～15:40

11. 総合討論 15:40～16:20

座長: 米崎史郎（水産機構資源研）

（シンポジウム終了後の 16:40 から一般社団法人水産海洋学会 2024 年度定時総会）

開催趣旨：近年、漁海況予報が多様化しつつある。水産庁漁海況予報事業をはじめとして地方自治体、大学や公設の研究機関さらには民間企業から個別の情報発信が行われ、また、船舶調査、衛星観測や海況予測システムに基づく多様なデータを用いて、機械学習や AI を含む様々な統計手法あるいは各種個体ベースモデル等を用いた技術革新も進められている。これらにより漁海況予報の精度向上や運用の自動化・円滑化はどれほど進んだのだろうか？また、同じ水産庁事業内で互いに独立して実施されてきた漁海況予報と資源評価は現在どのような関係にあるだろうか？本シンポジウムでは、古くからおこなわれてきた漁海況予報の歩みと現在の状況を整理するとともに、最先端技術を用いた漁海況予報の技術革新についても紹介する。さらに、資源評価との関係性を振り返りながら、漁海況予報への多様なニーズを考えることで、これからの水産資源の利用や漁業の持続性について議論を深めたい。